

白川わくわくランド ニュース

第19号

発行
 ●白川流域住民交流センター
 (白川わくわくランド)
 〒860-0854
 熊本市東子飼町8-55
 TEL・FAX (096) 346-5454
 ホームページアドレス
<http://www.wakuwaku-land.com>
 メールアドレス
wakuwaku@wakuwaku-land.com

白川わくわくランド 寺子屋

「白川河口の歴史を学ぶ」 その繁栄と災害

昔港町として栄えた小島町 今町を愛し、復興に取り組みまちづくりの人々

小島町は、陸の交通路である鉄道が九州に設けられるまで、熊本の水運の玄関口として繁栄した。当時は、問屋や商店・旅館・蔵などが軒を並べていたように、その面影が蔵跡などに残っている。

また、旧白川右岸側堤防には、藩政時代の番所跡が残っており、海運隆盛を忍ばせる。また、恵比寿の石像や宇土の馬門(まかど)石で造られたと思われる船着場のピンク色した石段は、現在も生活に溶け込んでいる。



小島まちづくり委員会の協力で地産地消「アサリの味噌汁と海苔巻おにぎり」の昼食。参加者は大満足。

災害 後世に伝えたい!

有明海に近い小島町や松尾町などは、昔から津波や高潮による災害を受けてきた。その度に、人々は、犠牲者の慰霊をするともに、二度と同じ災害が起こらないことを念じ、慰霊碑や供養塔を建てた。そして、地域の人たちに守られながら、その意が伝えられている。

ただ、一方では、当時の人々の思いが忘れ去られているところもある。再度、地域の方々にその存在を知ってもらう、防災・減災への意識を喚起できたらと思う。

今回は、熊本市防災センターで「水害と防災」についての話をうかがい、その後、過去の災害碑などを調べる現地学習に出かけた。



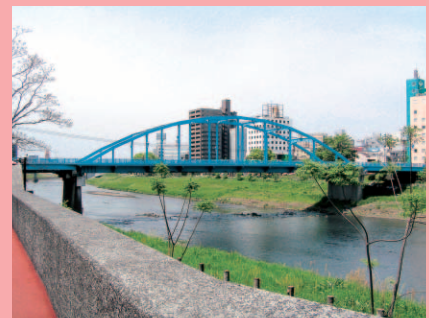
小島小学校前にある島原大津波供養塔

白川の橋⑮ 銀座橋

河口から数えて15番目の橋。橋長は108.6m、幅は車道が8m、歩道が上下それぞれ1.5mずつ。

左岸は熊大医学部付属病院と熊本保健所の間を通り、九品寺へ続く市道。右岸は国道3号へ。

街の中で水色のアーチが美しい橋。



浪先石(松尾町梅洞)

寛政年間のいわゆる「島原大変肥後迷惑」の大津波の碑。ここまで津波がきたという。「寛政四年四月朔温泉岳崩つ札大つなみとなりたる恐ろしき浪先此の石に及び」とある。



昭和二年の潮害碑



道沿いにある潮害供養塔

道路沿いに一カ所、権現山の山腹に一カ所、昭和二年九月の台風による潮害で四〇〇名を上回る死者、行方不明者を出した災害碑がある。

権現山の潮害碑

高さ約12.6m、土台は9m四方ある。碑の側面には「この碑眺むりや涙が出るよ、二度と受けまい潮の害」の警句が刻まれ、災害の教訓を後世に残したい当時の人の思いがうかがえる。建てられた時は公園化されていた。



寺子屋 わくわく講座

1 白川沿いに暮らしたいにしえの人々

期日 三月十一日(金)
 講師 熊本県教育庁文化課
 岡本 真也 氏
 場所 白川わくわくランド
 参加者 二十八名

昨年(2004年)、小碓橋際左岸(新南部遺跡群)で住居跡が発掘されました。また、右岸中腹には古墳があり、それらを含め、今回の発掘作業の結果を聞くことで、白川沿いに暮らした古の人々の暮らしを想像し、自然と人々の暮らしに想いを馳せる講座を開催しました。講師は、今回の発掘作業に携わられた県文化課の岡本真也氏です。現在の私たちの生活の延長上にある話に質問も多く出されました。また、展示された土器等にも触れて観ることができました。

新南部遺跡群の紹介

(熊本市渡鹿八丁目)

この遺跡群は、白川の下流、左岸の段丘上に広がる遺跡群で、九つの遺跡が統合されています。縄文時代から現在まで続いている遺跡群です。今回の調査は、白川に最も近い地点で、標高が約二十メートル、対岸には宇留毛小碓橋際横穴群やつつじヶ丘横穴群などの古墳時代のお墓がある場所です。
 (講座資料より)

発掘調査でわかったことや

考えられること

○古墳時代の終わりころ(七世紀前半)：今から約千四百年〜千三百五十年前(の家の跡が十七軒確認されました。家の中には須恵器・土師器・鉄器・紡錘車などの遺物、調理施設としての竈、柱の穴、当時の人々が床を踏みしめた硬化面が残っていました。

また、対岸の横穴群と同じ時代であることから、当時白川を隔てて、墓域と集落が存在していたことが判明しま

した。上流や下流の遺跡からも当時の住居跡が確認されており、白川沿いに点々と集落が存在していたことがわかります。

○平安時代の終わりから鎌倉時代の始めころ(十二世紀後半)：今から約八五〇年〜八〇〇年前(の畑の畝跡が確認されました。どうい作物が栽培されていたかは、畑の土の中に含まれる炭化した種子やプラントオパールなどの科学分析により、確認したいと考えています。
 (講座資料より)

寺子屋 わくわく講座

2 野生植物と人間との関係

白川わくわくランド前の河川敷では、春になるとカラシナやツクシ摘みの人々を見受けま

す。昔は、四季折々に野草を愛で、食し、その季節感を楽しみました。しかし、食生活が多様化して、自然と疎遠になって久しくなります。

今回は、白川沿いを中心に野生植物や人間との関係についての話をいただきました。また、たくさん薬用植物なども持ってきていただき、観たり、触れたり、ちよっと食してみたり…。身近にある植物が、日本の風土の中で、日本人の生活と深く結びついていたことも驚きでした。

阿蘇の野焼きの後に芽生えた様々な植物たちや中流域の春の野草がスクリーンに映し出されます。フキノトウなど春先に芽吹くアクの強い植物は、冬に貯まった毒素

遊水地 川の豆知識.4

洪水時に、流れてくる水の一部をためることで、洪水の勢いを弱め、下流域の流水を小さくする洪水調整の土地を遊水地といいます。昔からの洪水で自然にできたものに人間の手が加わったものや人工的に造られたものがあります。

現在の遊水地は、普段はサッカーや野球などの運動場や池のある公園などに利用し、洪水時だけ越流堤を通して水が流れ込むようになっています。洪水後は、排水門から溜まった水を排出します。

白川流域では「内牧遊水地」、熊本市では「坪井川遊水地」があり、通常はスポーツ場などとして多目的に使われている。



坪井川の越流堤



期日 三月二十四日(木)
 講師 熊本大学大学院薬学教育付属
 薬用植物園園長 矢原 正浩 氏
 場所 白川わくわくランド
 参加者 二十五名

を抜いてくれ、そして夏を迎えることができるのだそうです。

アブラナとカラシナの食としての特徴や見分け方、ツクシの後のスギナやヨモギ、ナズナ、ノビルなどの薬用効果、春の七草について等々興味深い話が続きます。

また、「食と植物」については、「食の安全性」や「地産地消」「日本料理と薬味や薬膳」などについても例をあげながらお話いただきました。

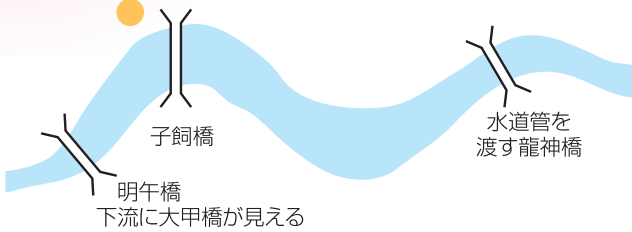
「自然は放置すればいいかと言つとそうではない。人間の手が入ることによっていい自然が保たれる。例えば、松林でも、ある程度の松葉が取り除かれていい林になる。」との言葉が印象的でした。

春をさがそう!

白川ハイキング&ストーンペインティング

《白川わくわくランド寺子屋》

1 白川わくわくランド出発



今回の寺子屋は、3月26日(土)、白川わくわくランド周辺の白川沿いを歩きました。白川の春を探したり、地域の歴史を調べたりしながら、暖かい春の一日を楽しみました。草花を探したり、石投げをしたり、河川敷の緑地を駆け回ったり、心行くまで春の日差しをあびました。

熊本大学工学部裏の河川敷でお昼ご飯を済ませ、午後は白川わくわくランドで、途中で拾った白川の石にペインティングしました。

2 細川刑部邸跡



刑部邸跡石段に咲いていたオドリコンソウ。くるくる回るオドリコンソウの風車。

3 碩台小学校横小道



4 藤崎八幡宮



5 明午橋

6 子飼橋左岸河川敷



こんな石でこんなに投げてると跳ぶんだよ。

9 白川わくわくランド



河川敷で拾った石にペインティング。

8 熊大裏白川右岸河川敷



紙飛行機。河川敷を吹き抜ける風を受けて遊ぶ。

7 龍神橋

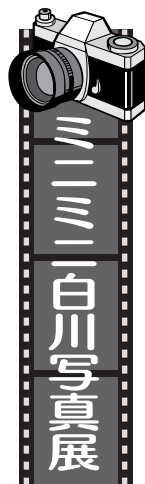


もともと水道を通す橋でした。

白川わくわくランドに来館された熊本市大江の片山光雄氏から戦前戦後にかけての子飼橋・龍神橋周辺の白川の写真を多数いただき、その中の二十点を展示しました。

川で遊ぶ子供たちや砂利取り舟上河原での花火大会など今では見られない白川の風景を観ることが出来ます。また、渡鹿堰から引かれた大井手の風景や昭和二十八年の大水害後の大江の通りなどもあり、一時代の白川周辺の生活を感じる事が出来ます。

この写真展は六月いっぱい開催します。ゆったりと時間が流れた当時の写真に心とみます。近くにお出での際はお立ち寄りください。



ミニミニ白川写真展



〈展示場〉



〈6.26水害後、上河原左岸埋め立て地より火葬場の全景〉

6月からの寺子屋案内

7月

わくわくお元気教室
7月22日(土)
10:00~12:00
【定員】20名
【対象】4年生以上
【参加費】100円

9月

白川の生きものたち
9月10日(土)
10:00~12:00
【定員】20名
【対象】小学生以上
【参加費】100円

8月

阿蘇谷源流探検
8月4日(土)
9:00~16:00
【定員】15名
【対象】4年生以上
【参加費】100円